

県民の皆様へ

こんにちは、宮城県医師会会長の佐藤和宏です。

本日は、宮城県医師会事務局の佐々木総務課長を聞き手として、宮城県民の皆様方が、大変不安に思っているであろう新型コロナウイルス感染症について、さまざまなご質問にお答えしようと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

Q ; ご紹介いただきました、佐々木です。それでは早速、質問を開始したいと思います。今回は、中国の武漢を発祥地として、現在は全世界に感染が広がった、いわゆるパンデミックの状態になっていますが、このウイルスは怖いウイルスなのでしょうか。

A ; 全世界に感染が広がり、先が見えないという点で、県民の皆様方も大変不安になっていると思います。また経済的な落ち込みも激しく、精神的にもつらい思いをしている方々が多いと推察します。ただし、このウイルスは、感染力は強いですが、死に至る割合はそう高くなく、軽症者が約8割で、残りの重症者の中で、高齢者や持病のある方などが重篤な状態になると言われています。インフルエンザとの比較でいう方もいますが、インフルエンザと異なるのは、診療所などで使える簡単な診断試薬がまだなく、またタミフルのような治療薬もないことです。また新しいウイルス感染症なので、まだよく分かっていない点があることが不気味な点です。

Q ; 今診断のお話や治療薬の話も出ました。仮に、簡易診断キットや治療薬が使用可能になれば、現在の状況は変わりますか。

A ; そうですね。簡易診断キットが一般の診療所で使用可能となり、十分な防護体制のもと使用されて、陽性となった場合に、治療薬が投与できるようになれば、患者さんにとっても私たち医療側にとっても、現在よりは大変扱いやすい感染症となりえます。早くそうなって欲しいと願っています。そうなれば、現在のような閉塞状態も劇的に改善されると思います。

Q ; 少し、明るい話題ですが、実際には簡易診断キットや治療薬の開発、そして予防のワクチンの開発はどうなっていますか。

A ; 簡易診断キットは、中国で開発された血液を用いるものが使用可能となっています。今後、十分な供給が確保され保険適応になれば、使えると思いますし、国内でも別のキットの開発が進んで、3月末には完成との話も聞きます。治療薬は、日本で開発され、新型インフルエンザ用に備蓄されていたアビガンという薬が中国ではこの感染症に使用されて効果が出ています。ある種の喘息吸入薬が有効であったという報告もあります。また急性膵炎治療薬のフサンという注射薬も注目されています。現在は、これらの使用可能な治療法が無く、私たち医療側も大変な緊張感の中におりますが、早くこれらの援軍が来てくれることを期待しています。

Q ; 話は戻ります。現在の診療体制を教えてください。

A ; 現在は、発熱や風邪症状があってもすぐには医療機関を受診せず、自宅で療養してくださいとお願いしています。その上で、改善しないときは、かかりつけ医やコロナウイルスに関する一般健康相談窓口（いわゆるコールセンター）へ電話して、指示を仰ぐことになっています。これは、医療機関には、高齢者や持病のある方が多いため、重症化しやすいその方々をしっかりと診療する目的や、院内感染を防ぐ意味があります。

Q ; 分かりましたが、その先はどうなっていますか。

A ; コールセンターから帰国者・接触者相談センターへ連絡が行き、そこから必要があれば、帰国者・接触者外来に紹介してくれます。そこで医師が診察して必要ならば、咽頭などから検体を採取し、PCR 検査を行います。結果は数時間かかります。

Q ; テレビなどで PCR 検査は、なぜ韓国のようにドライブスルー方式などでやらないのか。不安だから、やって欲しいとの声も多く聞かれますが、なぜですか。あるいは、なぜ一般の開業医などで PCR の検査ができないのですか。

A ; 日本では、感染の可能性が高い方を中心に PCR 検査をしています。一般の開業医では、防護用品も不十分であり、コロナウイルスの検体採取は行いません。また、もし陽性となれば、現在の法律では軽症者も入院となります。このように日本では、一般の医療機関での院内感染を防止し、医師の診断で感染が疑わしい方を中心に PCR 検査を行い、そして重症化を防ぐ観点から検査治療を行っています。ご批判も承知していますが、結果的にはうまくいっていると思います。ただし今後蔓延した場合には、発熱外来の設置や入院者のトリアージなども考えるべきです。

Q ; インフルエンザの検査も行わないのでしょうか。

A ; 発熱し、風邪症状などがある場合には、普通の風邪なのか、インフルエンザなのか、新型コロナウイルス感染症なのか、分かりません。検体採取の手技、それ自体は難しくはないのですが、十分な防護用品がない場合には感染の危険性が高いので、検体採取は行いませんのでご理解ください。

Q ; マスク、手洗い、不要な外出を控えるなどはいつまで続くのでしょうか。

A ; 私は、最大の予防策は、県民一人一人がこの感染症に対して、危機意識を持つことだと感じています。ただし、人間、いつまでもこの閉塞状態に我慢できるとは限りません。宮城県は、一人陽性者が出てから、約 3 週間一人も出ておりませんが、大都市圏では現在、入院ベッドの確保など結構大変だと聞いております。経済の停滞との兼ね合いもあり、大変難しい判断ですが、今後の推移を見ながら判断するしかありません。最近すっかり忘れていましたが、人類の歴史はペスト、スペイン風邪、結核などの感染症との闘いの歴史でした。人類は時に負けそうになりながらも、結局は打ち勝ってきました。迅速診断キット、治療薬、ワクチンなどの開発が全世界で精力的に進められています。これらの結果が出始めており、援軍は必ず来ます。それまでは、まさに辛抱の時なのです。東日本大震災を経験し、乗り越えてきた私たち東北人は、辛抱強く忍耐し、この国難を乗り越えていきましょう。